

金子 環氏のチベットラマ僧による 大型仏画完成迄の軌道

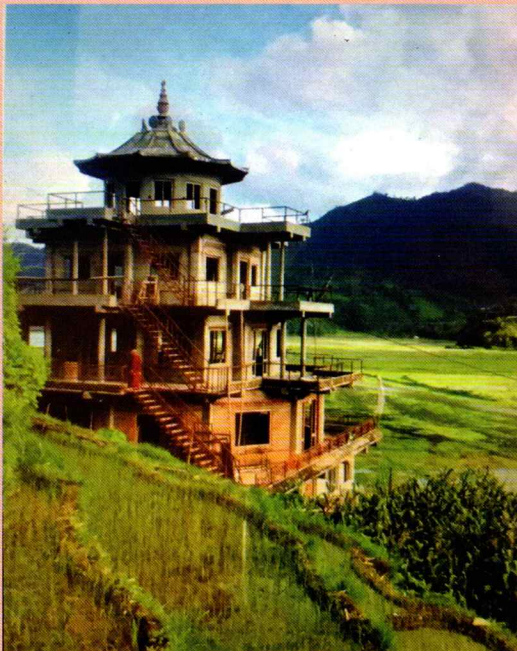
芸趣山房（東京工房）（ネパール工房）紹介



金子氏とチベットラマ僧の制作風景



金子氏と巨大仏画



寄贈した寺院



ネパールの工房

金子 環氏は、日本の仏教美術に残された貴重な原図を後世へ伝えるため、1986 年より仏画復元制作への挑戦を始めました。日本に残る原図や資料を研究し、チベットラマ僧の絵描き 10 名とともに、失われつつある仏教絵画の復元に取り組みました。制作には日本古来の天然石顔料をはじめ、金泥・銀泥など伝統的な材料を使用。繊細な筆づかいや色彩表現など、日本仏教美術の技法を研究しながら、長い年月をかけ一枚一枚制作されました。2001 年、40 年の歳月を費やし大型仏画が完成。その後も平安時代以降に描かれた数々の仏教絵画の復元制作を続け、文化を未来へ残す活動を続けています。2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が発生。行方不明のまま大切な人のもとへ帰ることができない多くの方々への祈りを込め、「亡き人々を西方浄土へ導く」とされる阿弥陀聖衆来迎図の制作にも力を注ぎました。「善は美なり」その想いのもと、40 年という長い年月をかけ、細部まで丁寧に描かれた大型仏画の数々。

5m×5m の作品 4 点、5m×3m の作品 5 点。

圧倒的な大きさと、受け継がれる祈りの世界をぜひ会場でご覧ください。